



グリーンポトスニュース

40号：2000年12月

いよいよ12月です。20世紀もあとわずか。今世紀最後のポトスニュースです。そこで、今月は、インフルエンザとともに冬になると流行る『胃腸風邪』です。

胃腸風邪

毎冬、インフルエンザとともに、流行する病気に胃腸風邪があります。嘔吐したり、下痢をしたりと、大変な病気です。

実は、この胃腸風邪も、インフルエンザウィルスの仕業なのです。おなじみの「インフルエンザ」は、インフルエンザA型により引き起こされ、40度近い高熱が、数日続き、毎年、学級閉鎖や、老人ホームでの集団感染など、世間を賑わしております。胃腸風邪を引き起こす「インフルエンザ」はインフルエンザB型で、激しい下痢と嘔吐を特徴としております。インフルエンザA型と違い、高熱が出ることはあまりありません。

現在、行われているインフルエンザ予防接種の中にも、A型とともに、B型に対してのワクチンも含まれております。しかし、A型に対しては、約90%有効なのに対して、B型に対しては、50%前後しか効力を発揮していません。



胃腸風邪の厄介なところは、食物を摂取できないことです。食欲が無くなるばかりではなく、何かを食べると嘔吐してしまい、嘔吐を我慢しても腸管は受け付けず、栄養を吸収できず、下痢となってしまいます。そのため、口より栄養が取れないため、体力がつかず、なかなか回復しません。

治療の中心は、最低限の水分補給と抗生剤などを服2薬し、体力が回復することを待つことです。いずれにしても、食べることができないというのは大変なストレスとなります。ですから、もし食べることができれば、消化の良いものを少量ずつ摂取することです。しかし、ほとんどの場合、嘔吐や下痢を誘発するため、あまり無理に食物を摂取しないほうが、結果的には体力を保持することにつながります。食物が全く摂取できない場合は、点滴が必要となってきます。

かめざわクリニックでは、点滴治療とともに、点滴成分を経口で摂取できるようにした「飲む点滴」も処方しております。早めに受診してください。